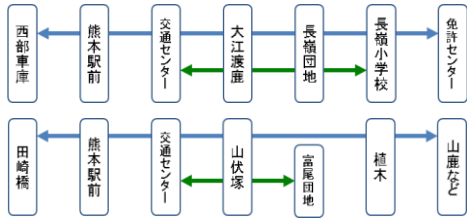


1. 目的

バス事業者が連携して路線網の再編をすすめ、利用者のニーズに沿った利便性の高い持続可能なバス路線を実現する

2. これまでの取組状況

●競合路線のダイヤ改善、統一時刻表の導入



▲ 競合路線の状況(九州産交バスと都市バス)

産交バス・都市バス 共通時刻表		交通センター（熊本駅）方面									
6	83	23	30	34	41	46	52	59			
7	01	07	16	17	22*	32	38	45	43	47	49
8	10	17	23	30	33	37	46*	53*			
9	03	07	26	29	33	36	38	41	50*	56	
10	01	03	10*	15	33	33	41	46*	49		
11	01	11	14*	23	29*	38	52*	55			
12	06	13	24	32	46	56	57*				
13	03	21	39*	41	46*	53*					
14	05	11	17*	24	43	44*	51*				
15	00	09	20*	26	28*	33	41	50	57*		
16	05	11	18	21	26*	29	33*	34			
17	01	04	12	16	37	42	44	58			
18	03	12	31	37	44	45					
19	00	04	07	21	37	52					
20	01	06	27	36	42	44					
21	00	25	32								
22	D4	22									

▲ 2社共通の時刻表

●バス路線の評価検討

ICカードの利用実績データを基に、区間ごとの運行状況や利用実態や沿線の人口分布、施設の立地状況等について各路線の評価を実施

●植木・北部方面及び小島・城山方面の再編

利用状況に応じた幹線・支線化や運行の効率化などの再編を実施

再編の概要

・植木 北部方面

植木バス停で幹線・支線化
山鹿線、玉名線
南関線、植木線

・小島 城山方面

天水支所～河内温泉センター間で
幹線・支線化
玉名駅⇔河内温泉センター
桜町BT⇔小天温泉・天水支所

乗換改善の取組

・乗換地点の上屋・ベンチ等の整備、
バスロケモニター設置
・くまモンのICカードのポイント還元にて、
運賃負担の軽減策を実施



●共同経営計画による重複区間の最適化

サービス水準を同程度に保ちながら利用者の利便性を確保しつつ、

- ①需給バランスを踏まえた運行の効率化
- ②待ち時間の平準化による利便性の維持・向上

を目的に、複数のバス事業者が重複して運行する代表4区間の最適化を実施。

- ①旧3号線方面の最適化
〈植木・山鹿方面〉
- ②川尻市道方面の最適化
〈川尻・松橋方面〉
- ③産業道路・国体道路方面の最適化
〈長嶺方面〉
- ④旧57号線方面の最適化
〈楠・大津方面〉



3. 今年度の取組

●輸送資源を活用した交通体系の効率化（ダウンサイジング等）

市内を運行する路線バスについて、バス利用の需要規模に応じた効率的・効果的な運行に向け、地域の実情に合わせた交通モードの最適化を図るため、車両の小型化、運行経路やダイヤ（頻度等）の見直し等の基準や方針について検討を行っていく。

